YAMAHA

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

e Vino

EF-06

B86-F8199-J0

JAU27264

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠ 警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
- あなた自身のために 1-1
- 歩行者と他の車のために 1-4
- 環境との調和のために 1-5
- 交換部品と運搬 1-5
- 安全な充電とバッテリー取り扱いの注意 1-6

各部の名称 2-1
- 左側面 2-1
- 右側面 2-2
- 運転装置と計器類 2-3

EF-06 の特徴 3-1
- 主な特徴について 3-1
- 標準モード／パワーモード／ブーストモード 3-1
- 走行距離の目安 3-2
- バッテリーの上手な使いかた 3-2
- バッテリー残量の目安 3-3

各部の取り扱いと操作 4-1
- キーの取り扱い 4-1
- メインスイッチ 4-1
- キーシャッター 4-3
- 警告灯と表示灯 4-3
- マルチファンクションメーター 4-4
- ハンドルスイッチ 4-8
- フロントブレーキレバー 4-9
- リヤブレーキレバー 4-10
- シートの開閉（シートロックオープナーの使いかた） 4-10
- ヘルメットホルダー 4-11
- 書類入れ 4-11
- フロントポケット 4-11
- コンビニフック 4-12
- トランク 4-12
- スタンディングハンドル 4-13

日常点検 5-1
- 日常点検の実施 5-1
- 日常点検箇所／点検内容 5-1

バッテリーの充電 6-1
- 充電する場所 6-1
- 充電のしかた 6-3
- 充電時間 6-8
- 充電の進行状態の表示 6-9
- バッテリーの知識 6-10
- バッテリーの保管 6-11

運転操作 7-1
- 発進の準備 7-1
- 発進 7-2
- 加速と減速 7-3
- ブレーキ 7-3
- 駐車 7-4

点検整備 8-1
- 点検整備の実施 8-1
- ファイナルギヤオイルの交換時期 8-2
- モーターの異音の点検 8-2
- 低速、加速の状態の点検 8-2
- タイヤ 8-3
- ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検 8-4
- ブレーキシューの摩耗点検 8-5
- バックミラー 8-6
- 車体各部の給油脂状態の点検 8-6
- 灯火装置および方向指示灯の点検 8-7
- 充電器のコードと各プラグの点検 8-7
- 運行において異常が認められた箇所の点検 8-8
- こんなときは 8-8

お車の手入れ 9-1
- 洗車 9-1
- 保管のしかた 9-2
- アフターケア用品について 9-3

製品仕様 10-1

ユーザー情報 11-1
- 二輪車を廃棄する場合は？ 11-1
- サービスマニュアル（別売）の紹介 11-2
- 車両情報 11-2

JAU27281

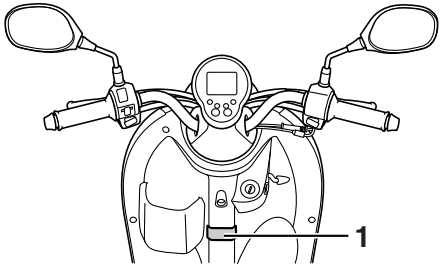
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAUT4490

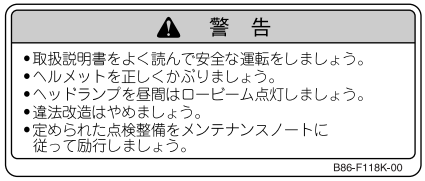
あなた自身のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。
車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル



安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

● 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服

● 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

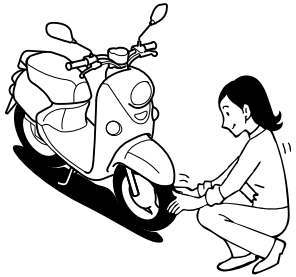
JWA11591

⚠警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を行ってください。また、法令に準じた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



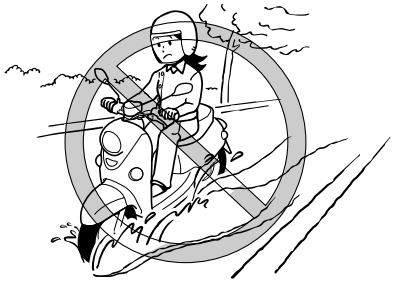
車の異状

異音がしたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

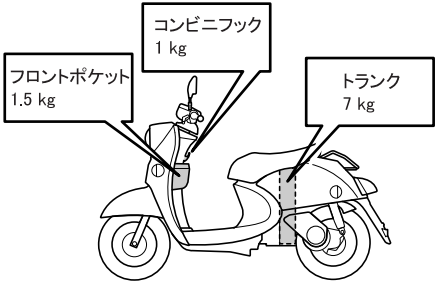
冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障

の原因となります。やむをえず、冠水した道路を走行し、水に浸ってしまったときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



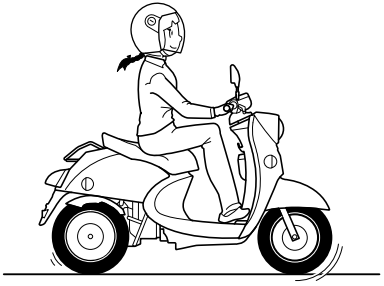
荷物を積むときは



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険です。積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- モーターなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード

運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。



押して移動するときはメインスイッチを OFF にする

車から降りて押して移動するときは、メインスイッチを OFF にしてください。

乗車定員は 1 名

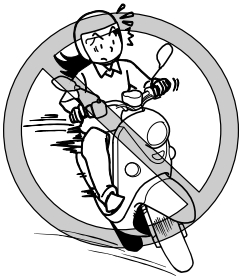
運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

法定最高速度は 30km/h

車の速度が法定最高速度（30km/h）以上になると、マルチファンクションメーター部の速度警告灯が点滅し、運転者に注意をうながします。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

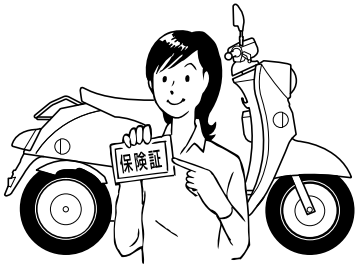
JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。

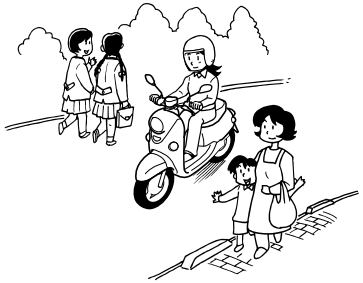


JAUT4500

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

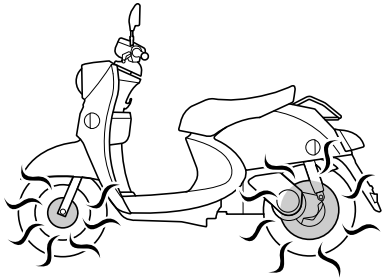
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。また、歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけてキーシャッターを閉じ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、メインスタンドが確実にセットされているかを確認してください。



JWA15681

⚠警 告

走行直後はモーターやブレーキ関係の部品に直接触れないでください。高温になっていて、ヤケドするおそれがあります。

昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU50301

環境との調和のために

違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

環境への配慮

廃車をするときや、寿命がきてバッテリーの交換が必要になったときは、環境保護のためお買いあげの販売店にご相談ください。

JAUT4770

交換部品と運搬

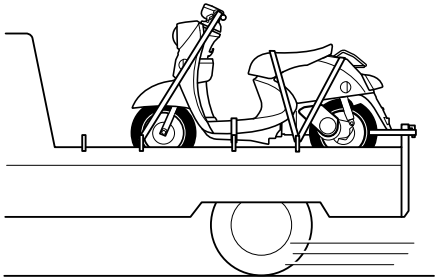
アクセサリーや交換部品は純正部品を使用する

JWA15551

⚠警 告

タイヤなどの消耗品やアクセサリーなどの部品は、販売店にご相談のうえ、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。また、保証の適用が受けられない場合があります。

運搬するときはバッテリーを外す



JCAT1260

注 意

四輪車などでこの車両を運搬する場合は、バッテリーを車体から外してください。バッテリーを外さずに運搬すると、車体やバッテ

リーを損傷するおそれがあります。

JAUT4460

安全な充電とバッテリー取り扱いの注意

- この車両の充電器は屋内専用です。
- 雨や水などが当たらない場所で充電してください。感電やショートにつながるおそれがあります。
- 漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに電源プラグを接続して充電してください。正しく接続されていないと、感電やショートにつながるおそれがあります。
- バッテリーを車両に積んだ状態で充電をしないでください。
- 充電器のコードや各プラグに変形や傷付きがあるときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながるおそれがあります。

JWAT1100

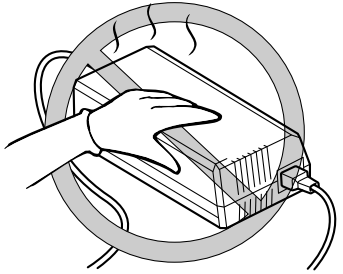
⚠ 警 告

充電器を針金などでショートさせると、感電または故障のおそれがあります。

JWAT1110

⚠ 警 告

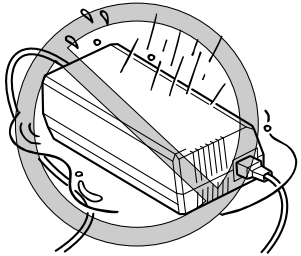
充電中の EF-06 専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れないでください。
EF-06 専用充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中の EF-06 専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。



JWAT1120

⚠警 告

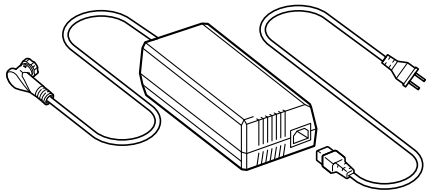
EF-06 専用充電器を水没させたり、濡れる場所に放置しないでください。
充電中にバッテリーや充電器を破損させたり、感電や火災に至るおそれがあります。水が入ったと思われる場合は、必ずヤマハ販売店で点検を受けてから使用してください。



JWAT1130

⚠警 告

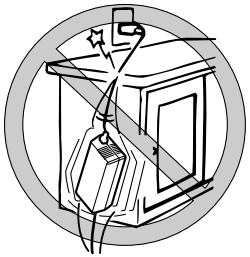
充電するときは、必ず EF-06 専用充電器および専用電源コードを使用してください。バッテリーなどが損傷するおそれがありますので、EF-06 専用充電器以外は絶対に使用しないでください。

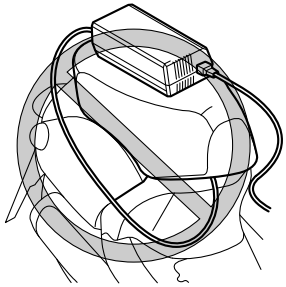


JWAT1140

⚠警 告

充電するときは、EF-06 専用充電器を平坦な場所にしっかり設置してください。
このとき、必ずランプが上向きになるよう設置してください。コードが引っぱられたり、逆さのままで使用すると感電や火災に至るおそれがあります。

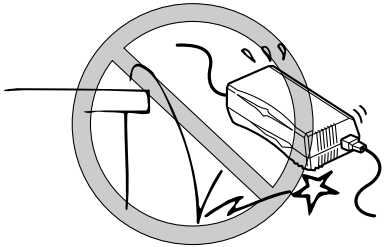




JWAT1150

⚠警 告

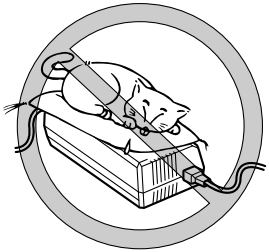
EF-06 専用充電器を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
充電ができなくなったり、感電や火災に至るおそれがあります。



JWAT1160

⚠警 告

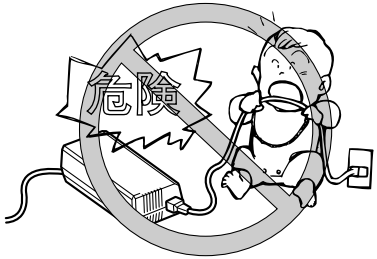
EF-06 専用充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数の EF-06 専用充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。EF-06 専用充電器は冷却のためファンが作動していますので、内部が発熱し、充電できなくなることがあります。



JWAT1210

⚠警 告

EF-06 専用充電器を幼児やペットがいたずらするところに放置しないでください。



JWAT1250

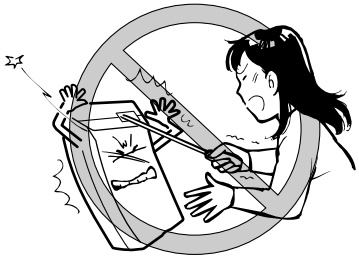
⚠警 告

充電器をトランクに入れたまま走行しないでください。充電器が損傷し感電や火災に至るおそれがあります。

JWAT1180

⚠警 告

バッテリーの充電コネクターにものをつめたり、ショートさせないでください。
接点部にものをつめると、接触不良により使用できなくなることがあります。また、針金などでショートさせると、感電や火災、故障のおそれがあります。



JWAT1190

⚠警 告

バッテリーに水をかけたり、水中に投下しないでください。
バッテリーに水をかけるとショートし、感電の原因になります。また、水中に投下すると電池機能を失い、使用できなくなります。

JWAT1200

⚠警 告

バッテリーを火中に投げ入れないでください。
バッテリーを火中に投げ入れると、破裂のおそれがあり大変危険です。使用済みのバッテリーは、ヤマハ販売店で必ずリサイクルしてもらいましょう。

JWAT1220

⚠警 告

バッテリーを分解しないでください。
バッテリーを分解すると感電や火災に至るおそれがあります。

JWAT1230

⚠警 告

バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
バッテリーが破損したり、断線の原因になります。特に階段の角にぶつけたり、運搬時に引きずったりししないでください。感電や火災に至るおそれがあります。

JWAT1240

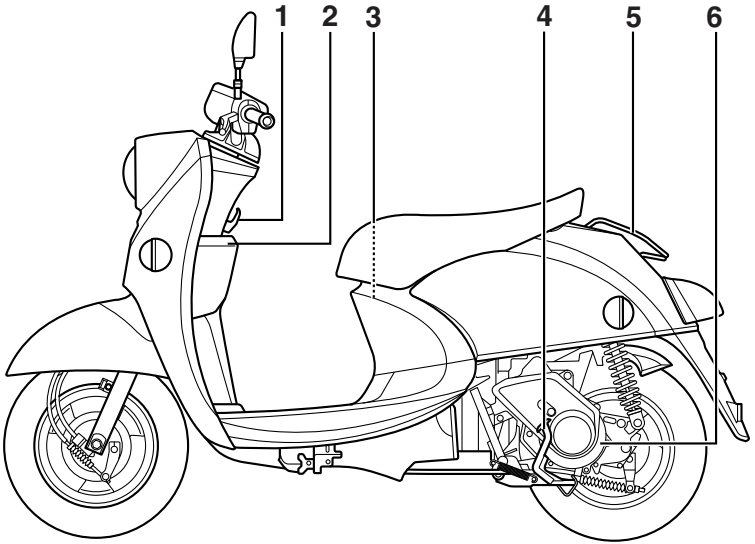
⚠警 告

損傷しているバッテリーは使用しないでください。
バッテリーを落下させたり、ぶつけたりして損傷したまま使用すると感電や火災に至るおそれがあります。ヤマハ販売店で点検を受けてから使用してください。

各部の名称

JAU10411

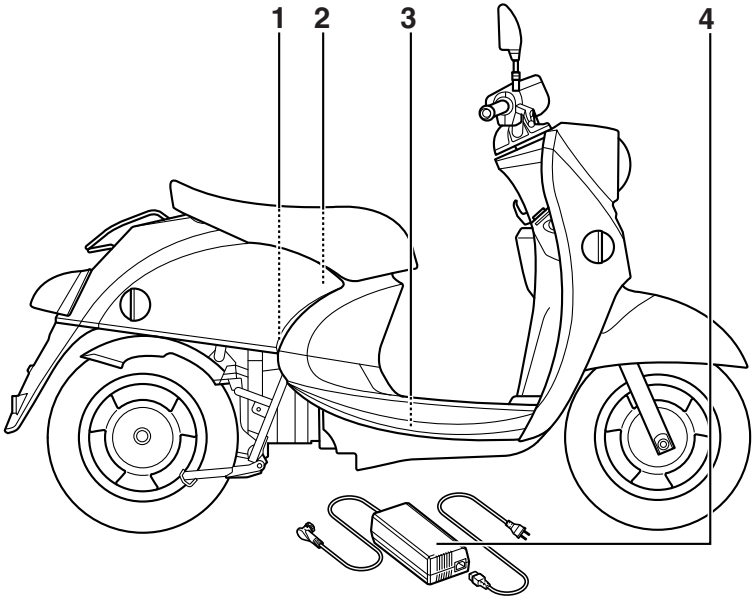
左側面



1. コンビニフック（P4-12）
2. フロントポケット（P4-11）
3. ヘルメットホルダー（P4-11）
4. メインスタンド
5. スタンディングハンドル（P4-13）
6. モーター

JAU10421

右側面

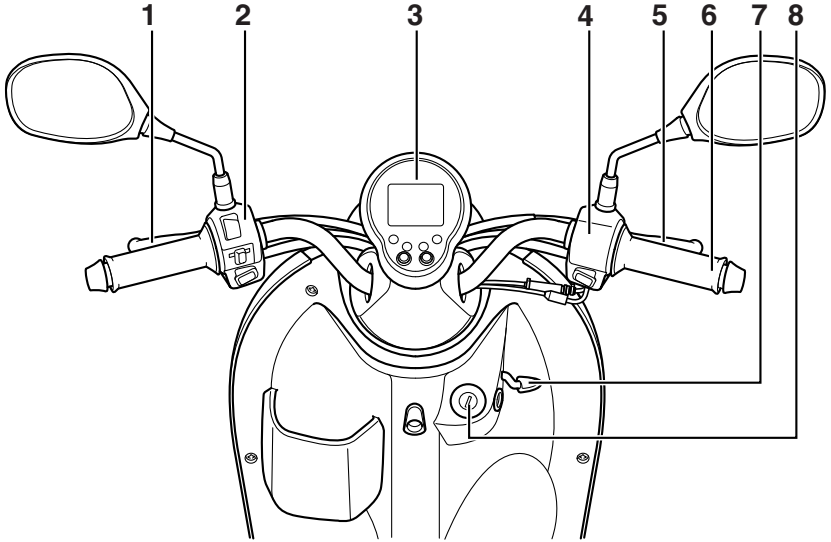


1. トランク（P4-12）
2. バッテリー（P6-10）
3. ヒューズ
4. EF-06 専用充電器

各部の名称

JAU10431

運転装置と計器類



1. リヤブレーキレバー（P4-10）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-8）
3. マルチファンクションメーター（P4-4）
4. ハンドルスイッチ（右）（P4-8）
5. フロントブレーキレバー（P4-9）
6. スロットルグリップ（P7-3）
7. キーシャッターレバー（P4-3）
8. メインスイッチ（P4-1）

JAUT4520

主な特徴について

EF-06 は、以下の特徴があります。

- 走行に必要なエネルギーは電気のみを使用し、燃料やエンジンオイルの交換を必要としません。（ファイナルギヤオイルは定期交換が必要です。）
- 高性能モーターの採用により、走行中の騒音・振動を大幅に抑えるとともに快適な走行が楽しめます。
- 漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（AC　100V）から充電することができます。

JAUT4650

標準モード／パワーモード／ブーストモード

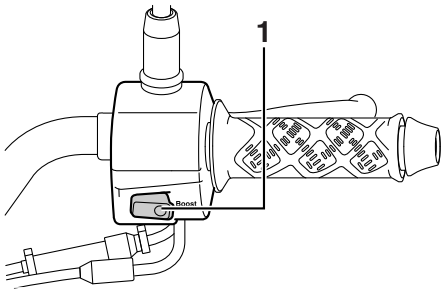
EF-06 は、走行条件（道路状況など）に応じて、モーターの駆動力を選択することができます。

通常は標準モードまたはパワーモードで、坂の多い道などでは、楽に走れるブーストモードで走行するなど、上手なモードの切り替えで快適な走行が楽しめます。

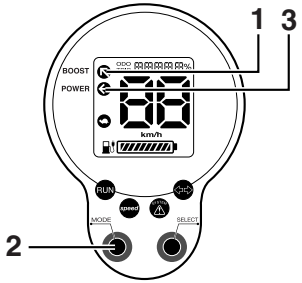
モードの切り替えかた

右ハンドルスイッチの “Boost” スイッチを押すとブーストモードに切り替わり、マルチファンクションメーターの液晶パネルに “BOOST” を指す矢印が表示されます。約 30 秒後に自動的に前回設定したモード（標準モードまたはパワーモード）に切り替わります。ブーストモード中に再度スイッチを押しても、前回設定したモードに切り替わります。

“MODE” ボタンを押すと、標準モードまたはパワーモードの切り替えを選択することができます。マルチファンクションメーターの液晶パネルに “POWER” を指す矢印が表示されているときはパワーモードで、矢印が表示されていないときは標準モードです。



1. ブーストスイッチ “Boost”



1. ブーストモード表示 “ ”
2. “MODE” ボタン
3. パワーモード表示 “ ”

モードの上手な選びかた

表を参考にしながら、走行条件に応じてモードを選んでください。標準モードで走行すると、バッテリーの消費が少ないため、1 回の

充電で走行できる距離が伸びます。

モード		標準	パワー*	ブースト*
適用状況	平地	○	○	□
	上り坂	△	○	□
	下り坂	○	○	□

○：効果的な走行ができる、おすすめモードです。
△：パワーモードやブーストモードに比べ、走行性が劣ります。
□：走行性は高いですが、電気の消耗が大きいモードです。
＊：標準モードに比べ、走行距離が短くなります。

JAUT4530

走行距離の目安

要　点

1 回の充電で走行できる距離は、以下のような走りかたや道路状況などにより異なります。
発進・停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧低下など。

一充電あたりの走行距離：
29.0km ※
※ 定められた試験条件（車速 30km/h での定地走行テスト）のもとでの値
走行時の気象、道路、整備などの諸条件により異なります。

- パワーモードまたはブーストモードを多用すると、標準モードで走行した場合より、走行できる距離が短くなります。
- バッテリーの特性上、気温の変化（バッテリー温度の変化）により、走行できる距離が短くなる場合があります。
- 車両の負荷（乗員の体重や荷物など）が 10kg 増加すると、走行できる距離が 5 ～ 10%短くなります。

JAUT4540

バッテリーの上手な使いかた

バッテリーは、満充電に近い状態（5 ～ 4 灯）で高温の場所に長時間置かれると劣化が進みます。バッテリーの寿命を延ばすため、以下のような取り扱いをおすすめします。

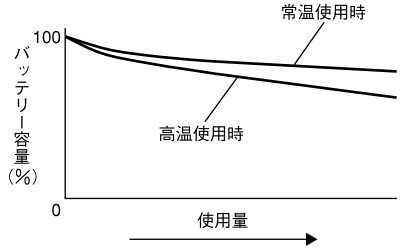
- 充電をするときは、直射日光が当たらない、涼しい場所を選んで充電してください。
- バッテリーの残量表示が 2 灯以下の状態で、長期間保管しないでください。
- 車両を保管するときは、直射日光が当たらず、風通しの良い涼しい場所を選んで保管してください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーからプラグを取り外してください。
- バッテリーを取り外して保管をするときは、涼しい場所を選んで保管してください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーの残量表示が 3 ～ 4 灯の状態にして、涼しい場所（最適温度 15°C ～ 25°C）に保管してください。もし、保管中に残量表示が 1 灯になったら、3 ～ 4 灯まで充電してください。

JCA17073

注 意

バッテリーの電圧が極端に低くなるまで放電してしまうと、充電ができなくなり、バッテリーが使用できなくなります。

バッテリー劣化のイメージ

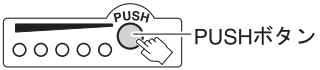


バッテリーを取り外しているときの残量の確認のしかた

バッテリーの “PUSH” ボタンを短押し（1秒以内）して、バッテリーボックス側ランプで確認できます。

要 点

“PUSH” ボタンを押しても表示しないときは、もう一回操作します。



バッテリー残量の目安	
81～100%	● ● ● ● ●
61～80%	○ ● ● ● ●
41～60%	○ ○ ● ● ●
21～40%	○ ○ ○ ● ●
11～20%	○ ○ ○ ○ ●
1～10%	○ ○ ○ ○ ◎
0%	○ ○ ○ ○ ＊

●：LED 点灯
○：LED 消灯
◎：LED 点滅（ゆっくり）
＊：LED 点滅（はやく）

要 点

バッテリー残量の数値は参考値です。

バッテリーを車両に取り付けているときの残量の確認のしかた

マルチファンクションメーターのバッテリー残量表示灯で確認します。

JAUT4660

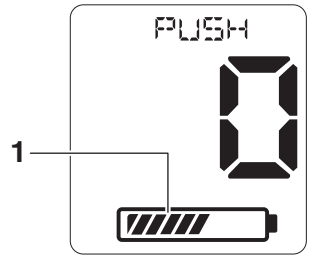
バッテリー残量の目安

要 点

使用する前に必ず確認してください。

マルチファンクションメーターのバッテリー残量表示灯の見かた

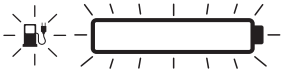
メインスイッチを ON にすると、バッテリー残量表示灯の全セグメントが数秒間点灯し、その後バッテリーの放電量に応じたセグメントを表示します。



1. バッテリー残量表示灯

バッテリー残量の目安

点灯　点灯　点滅　点滅

バッテリー残量（%）	メーター内バッテリー残量表示灯	状態
100～41		走行可能です。
40～31		
30～21		
20～11		登坂力などが低下します。充電してください。
10～1		バッテリー残量が10%になると1灯目のセグメントが点滅します。 早めに走行するのを止めて、充電してください。 ※電池の状態によっては表示されない場合があります。
0		バッテリー残量がなく、走行不可能です。充電してください。 ※電池の状態によっては表示されない場合があります。
		バッテリー残量がなく、走行不可能です。充電してください。

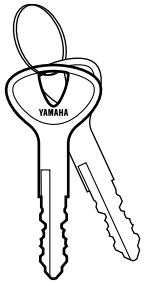
要　点

- “ ” が表示されたときは、制御装置がブーストモードの使用や出力を制限しています。
- バッテリー残量が 5%以下になると、バッテリー残量メーターに「--%」と表示されます。
- 正確なバッテリー残量を確実に表示するため、バッテリーは完全充電状態にしておくことをおすすめします。
- バッテリー残量の数値は参考値です。

JAU31082

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは 2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを 2 本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



JCA12502

注 意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

JAU49992

メインスイッチ

メインスイッチは、ヘッドライト、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621

⚠警 告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAUT4550

ON

全ての電気回路に電源が供給されます。全てのメーター表示部を数秒間表示し、ヘッドライト、テールランプとメーター灯が点灯します。キーを抜き取ることはできません。

要　点

EF-06 にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま 5 分以上経過すると電源が OFF になります。5 分以上停止してから再発進する場合は、一旦メインスイッチを OFF にしてから再度メインスイッチをONにして発進の準備をしてください。

JAU50011

OFF

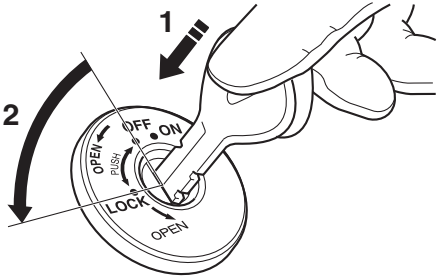
全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

JAU10686

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



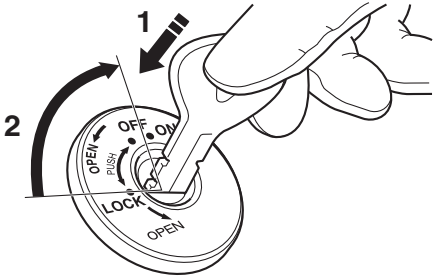
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回します。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

1. メインスイッチにキーを差し込みます。
2. LOCK の位置でキーを押し込み、そのまま OFF まで回します。

4

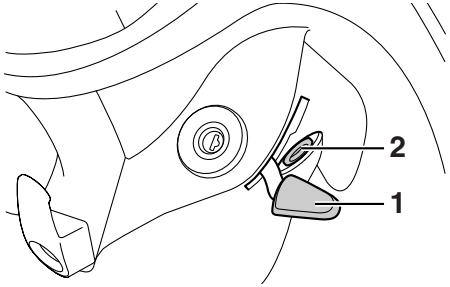
JAUT4560

キーシャッター

キーシャッターはメインスイッチのキー孔をガードします。

閉じかた

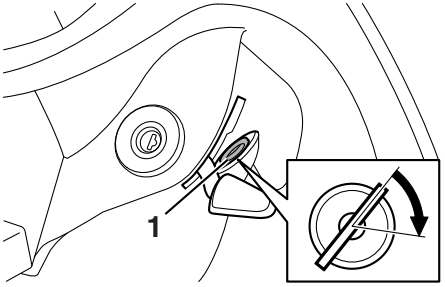
1. ハンドルロックをかけ、キーを抜きます。
2. キーシャッターレバーを手前いっぱいに引くとキー孔がガードされます。



1. キーシャッターレバー
2. 解除用キーシリンダー

解除のしかた

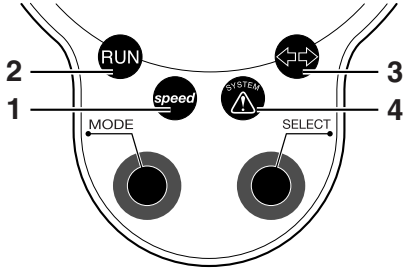
解除用キーシリンダーにキーを差し込み、押しながら時計方向に回すとキーシャッターが解除できます。



1. 解除用キーシリンダー

JAU1100B

警告灯と表示灯



1. 速度警告灯 “speed”
2. 走行可能表示灯 “RUN”
3. 方向指示器表示灯 “⇦ ⇨”
4. システム警告灯 “⚠”

JAU11022

方向指示器表示灯 “⇦ ⇨”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAUT4470

システム警告灯 “⚠”

車の電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要　点

- この警告灯は、キーを ON にしたときに約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- キーをONにしたときに警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合

は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAUT4830

速度警告灯 “speed”

車の速度が 30km/h を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

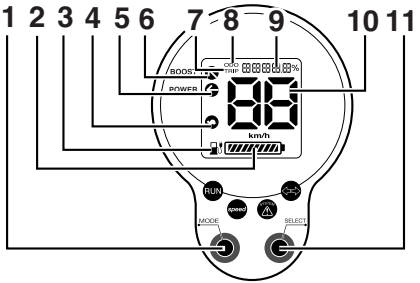
JAUT4480

走行可能表示灯 “RUN”

走行可能なときは “RUN” が点灯します。走行可能表示灯 “RUN” が消灯しているときは走行できません。

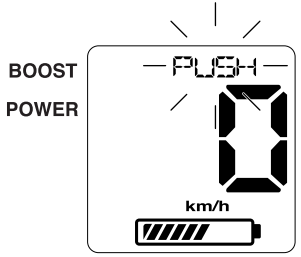
JAUT4670

マルチファンクションメーター



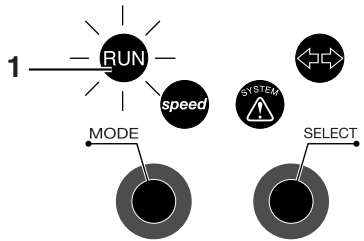
1. “MODE” ボタン
2. バッテリー残量表示灯
3. バッテリー残量低下表示 “ ”
4. 出力制限表示 “ ”
5. パワーモード表示 “ ”
6. ブーストモード表示 “ ”
7. トリップメーター表示 “TRIP”
8. オドメーター表示 “ODO”
9. バッテリー残量表示 “%” / 温度警告表示 “HEAT” / “CooL” / バッテリー劣化表示 “OLD”
10. スピードメーター
11. “SELECT” ボタン

この車両にはコントロールユニットなどの自己診断機能が装備されています。メインスイッチを ON にすると自己診断を行い、メーターが全て点灯します。自己診断終了後、自動的に始動待ちモードになります。始動待ちモードになると “PUSH” が点滅します。



“PUSH” が点滅しているとき、“MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押すと始動待ちモードが解除され、走行モードになります。

走行モードになると、走行可能表示灯 “RUN” が点灯します。



1. 走行可能表示灯 “RUN”

操作ボタン

“MODE” ボタン、“SELECT” ボタンがあり、以下の機能があります。

- 始動待ちモードの解除
- パワーモード／標準モードの切り替え
- オドメーター／トリップメーター／バッテリー残量表示の切り替え
- トリップメーターのリセット

JWA15621

⚠警 告

ボタンの操作は、必ず停車中に行ってください。

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- スピードメーター（車の速度を表示します。）
- オドメーター “ODO”（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター “TRIP”（リセットしてからの走行距離を積算します。）
- バッテリー残量表示 “%”（バッテリー残量を “%” で表示します。）
- バッテリー残量表示灯（バッテリー残量をセグメントの数で表示します。）
- 出力制限表示 “ ” （バッテリー残量が規定以下になった場合や、高温警告 “HEAT” の状態になったときに表示します。）

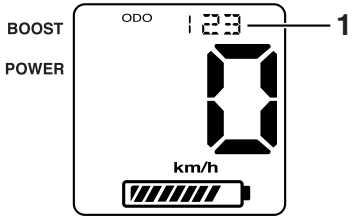
オドメーター／トリップメーター／バッテリー残量表示モード

“SELECT” ボタンを押すごとに、オドメーター、トリップメーターとバッテリー残量表示が以下の順に切り替わります。

オドメーター “ODO” → トリップメーター “Trip” → バッテリー残量表示 “%” → オドメーター “ODO”

オドメーター “ODO”

総走行距離を表示します。



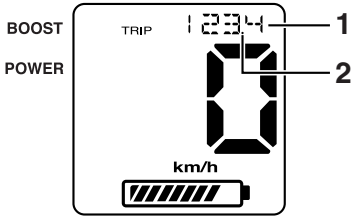
1. オドメーター

要 点

オドメーターは、最大値（99999 km）を超えると最大値で固定されます。

トリップメーター “TRIP”

“TRIP” を表示すると同時に走行距離表示部に小数点を表示し、前回リセットしてからの走行距離を積算して表示します。



1. トリップメーター表示 “TRIP”
2. 小数点

トリップメーターをリセットするには、“SELECT” ボタンで “TRIP” を表示させ、“SELECT” ボタンを 2 秒以上押します。

要 点

トリップメーターは、最大値（9999.9 km）を超えるとリセットされます。

バッテリー残量表示

“%” が表示されると、バッテリー残量表示モードに入ります。現在のバッテリー残量をパーセントで表示します。

要　点

バッテリー残量が 5%以下になると、バッテリー残量表示に “--%” と表示されます。

バッテリー残量の数値は目安です。

温度警告表示 “HEAT” ／ “CooL”

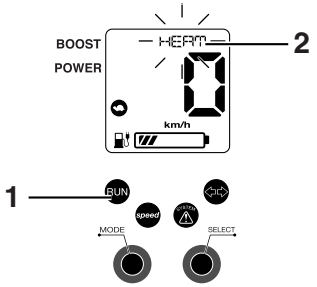
EF-06 は、バッテリーやコントローラーの保護のため温度保護機能を装備しています。温度異常を検出したときは、トリップメーター／オドメーターと温度警告を交互に表示します。

- バッテリー、コントローラーやモーターの温度が規定温度以上になると “HEAT” が点滅します。
- バッテリーの温度が規定温度以下になると “CooL” が点滅します。

要　点

- バッテリー温度が規定温度以上になると “HEAT” が点滅し、放電電流を制限するため駆動力が低下しますが故障ではありません。
- バッテリー温度が規定温度以下になると “CooL” が点滅し、放電電流を制限するため駆動力が低下しますが故障ではありません。
- 夏季の気温が高いときに長時間走行すると “HEAT” が点滅し、走行スピードが遅くなることがあります。
- 夏季に直射日光の当たる暑い場所に車両を放置した後に走行すると、“HEAT” が点滅し、走行スピードが遅くなることがあります。
- 冬季の氷点下など気温が低い場所に車両を放置した後に走行すると、“CooL” が点滅し、走行スピードが遅くなることがあります。
- バッテリー残量が2灯以下になっているときには、より高い温度で “CooL” が点滅し、走行スピードが遅くなることがあります。
- 長い登り坂を走行すると “HEAT” が点滅し、走行スピードが遅くなることがあります。
- 長い登り坂を走行するとコントローラーの温度が上がり、“HEAT” が点滅することがあります。続けて登り坂を走行するとコントローラーやモーター保護のため走行可能表示灯 “RUN” が消灯し、走行できなくなることがありますが故障ではありません。

走行可能表示灯 “RUN” が点灯しているときは走行できますが、バッテリー温度により放電電流が制限されている場合は、スピードが遅く感じることがあります。



1. 走行可能表示灯 “RUN”
2. “HEAT” 表示

特にバッテリー残量表示灯が 2 灯以下のとき、バッテリー温度により放電電流が制限されている場合は、駆動力が大きく下がりますが故障ではありません。

走行可能表示灯 “RUN” が点灯したままバッテリーやコントローラーやモーターの温度が規定温度になると、温度警告表示 “HEAT” ／ “CooL” が自動的に解除され、トリップメーター／オドメーターが再び表示されます。

走行可能表示灯 “RUN” が消灯しているときは走行できません。

メインスイッチをOFFにして、しばらく待ってから使用してください。

要　点

- 走行可能表示灯 “RUN” が消灯して走行が停止した場合は、規定温度になった後、メインスイッチを一旦OFFにしてからONにしなおすと、温度警告表示 “HEAT” ／ “CooL” が解除されます。
- 出力制限表示 “ ” が現れると、「ブースト（BOOST）モード」の使用が禁止され、バッテリーの消耗が激しくなることを防止します。また、バッテリー残量が約 20 %以下になると、出力が下がります。

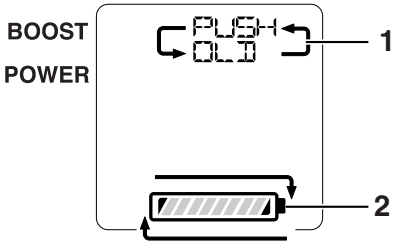
JWAT1430

⚠警　告

- **この車両を押して移動する場合は、メインスイッチを OFF にしてください。**
- **押して移動するとき、歩道のある場所では歩道を通行してください。**

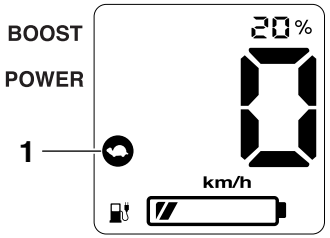
バッテリー劣化 “OLD”

バッテリー残量表示灯のセグメントが左右に移動しているように点滅します。
走行可能表示 “RUN” が点灯し、走行モードになっていれば走行できますが、バッテリーの寿命が近づいています。バッテリーの充電ができなくなる前に、バッテリーの交換についてヤマハ販売店にご相談ください。（8-11 ページ参照）



1. “PUSH” ／ “OLD” 表示
2. バッテリー残量表示灯

出力制限表示 “ ”



1. 出力制限表示 “ ”

出力制限表示 “ ” が表示されているときは、放電電流が制限されているため、ブーストモードが使えなかったり、駆動力が低下したりしますが故障ではありません。

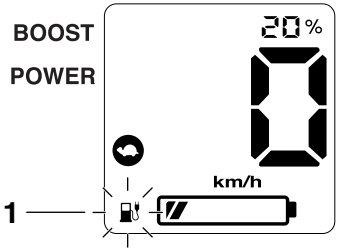
要　点

出力制限表示は、以下の状態のときに表示されることがあります。

- モーターやコントローラーが熱いとき
- バッテリー残量が少なくなったとき
- バッテリーの温度が熱い、または冷たいとき

バッテリー残量表示灯

バッテリーの残量を示します。
4 セグメントになると、バッテリー残量警告表示 “ ” が点灯します。
2 セグメント点灯になると、バッテリー残量警告表示 “ ” が点滅します。早めに充電してください。（バッテリー残量の目安は、3-3 ページ参照）

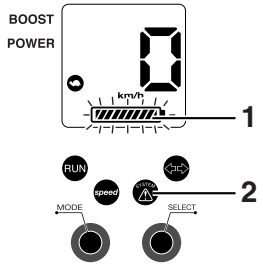


1. バッテリー残量低下表示 “ ”

要　点

- 走行前にはバッテリー残量が充分かを必ず確認してください。
- バッテリー残量の表示は目安です。

バッテリーの異常を検出するとバッテリー残量を表示できなくなり、システム警告灯が点灯し、バッテリー残量表示灯の全セグメントが点滅します。また、バッテリーの異常を検出すると、バッテリーからの放電に制限がかかることがあります。



1. バッテリー残量表示灯
2. システム警告灯 “⚠”

走行できますが、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

標準モード

通常は標準モードで走行します。(3-1 ページを参照)

パワーモード “POWER”

パワーモードに設定すると、“POWER” を指す矢印が表示されます。(3-1 ページを参照)

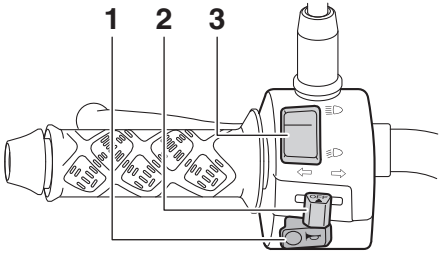
ブーストモード “BOOST”

ブーストモードに設定すると、“BOOST” を指す矢印が表示されます。(3-1 ページを参照)

JAU1234H

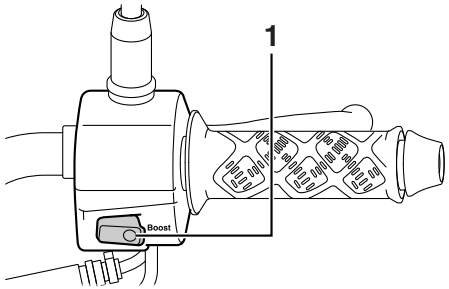
ハンドルスイッチ

<左>



1. ホーンスイッチ “🔊”
2. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
3. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡D/≡D”

<右>



1. ブーストスイッチ “Boost”

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≣O/≣O”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≣O（上向き）：遠くを照らします。

≣O（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU35973

方向指示器スイッチ “⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇨：右側の方向指示灯が点滅します。

⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

要　点

方向指示器を使用すると “カチカチ” 音がします。

JWA11641

⚠警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ “📯”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAUT4700

ブーストスイッチ “Boost”

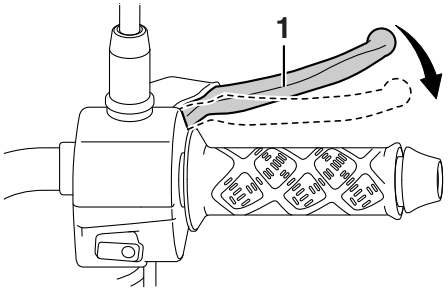
スイッチを押すとブーストモードに設定されて、“BOOST” を指す矢印が表示されます。登坂力などが増します。

要　点

- ブーストモードは約 30 秒間作動し、自動的に前のモードに回復します。
- ブーストモード中に再度スイッチを押すと、前のモードに回復します。

JAU12902

フロントブレーキレバー

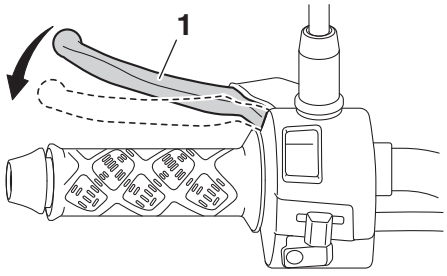


1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右側に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをスロットルグリップに向けて握ります。

JAU12952

リヤブレーキレバー



1. リヤブレーキレバー

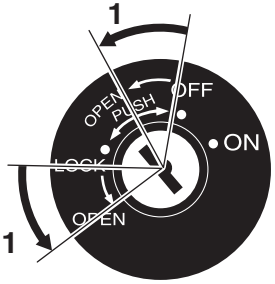
リヤブレーキレバーは、ハンドルの左側に取り付けられています。リヤブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

JAUT1504

シートの開閉（シートロックオープナーの使いかた）

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを OFF または LOCK から OPEN にします。



1. 解除

要　点

キーは押しこまないで回してください。

3. シートを持ち上げて開きます。

シートの閉めかた

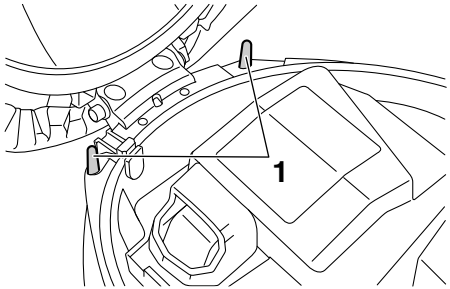
シートを降ろし、シート後部を押さえてロックします。

要　点

- シートを降ろしたら確実にロックされているか確認してください。
- キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。

JAU14302

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー

シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのあごひもの金具部分を掛け、シートをロックします。

JWA11651

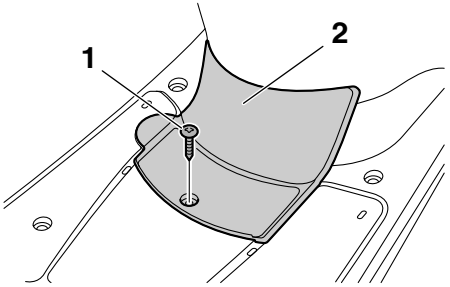
⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

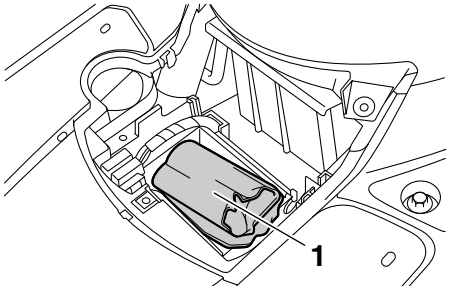
JAUT4780

書類入れ

メンテナンスノート、自賠責保険証はポーチに入れて、図の収納スペースに保管してください。



1. スクリュー
2. カバー

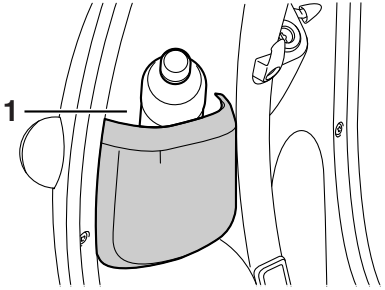


1. 書類入れ

JAU37131

フロントポケット

小物や、500ml のペットボトルなどが収納できます。



1. フロントポケット

JWA14171

⚠警 告

- **フロントポケットに積める荷物は 1.5 kg までです。**
- **ハンドル操作を妨げるような積みかたや、走行中に荷物が落下するおそれのあるような積みかたはしないでください。**

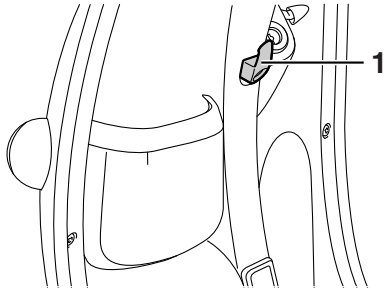
要　点

ペットボトルの形状によっては収納できないものもあります。

JAU28561

コンビニフック

手さげ袋などをこのフックに掛けます。



1. コンビニフック

JWA11681

⚠警 告

コンビニフックに掛けられる荷物は、1 kg までです。

JAUT4710

トランク

シートの下にトランクがあります。(4-10 ページ参照)

JWAT1340

⚠警 告

トランク内に積める荷物は、7 kg までです。EF-06 専用充電器をトランクに入れたまま走行しないでください。充電器が損傷し、感電や火災に至るおそれがあります。

JCAT1230

注 意

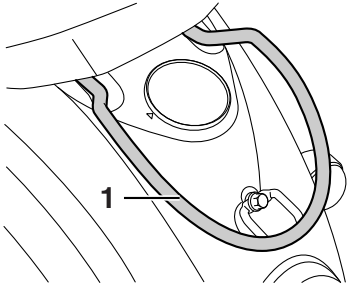
- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、トランク内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **トランク内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。**

トランクには、別売りアクセサリーの予備バッテリーを積載することができます。予備バッテリーを積載するときは、必ず予備バッテリー固定用部品を使用してください。詳しくは、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU29911

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



1. スタンディングハンドル

JAU15599

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要　点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAUT4840

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、8-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）
モーター	● モーターに異音がないこと。（※） ● 低速、加速の状態が適当であること。（※）
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

（注）

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車など）に実施をしてください。

JWAT1420

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検・整備をするときは、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。感電やショートにつながることがあります。**
- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。**
- **走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

バッテリーの充電

JAUT4740

JWAT1350

⚠警 告

- **指定以外の充電器を使用しないてください。（指定専用充電器 B86-H2107-**）**
- **屋内で充電してください。屋外で充電した場合、感電やショートにつながるおそれがあります。**
- **漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに電源プラグを接続して充電してください。正しくアースされていないと、感電やショートにつながるおそれがあります。**

JCAT1240

注 意

- **長期間保管後に使用するときは、使用の前に充電してください。**
- **バッテリーの残量が 60%以下の状態で、長期間保管しないでください。**

要 点

- メーターに“OLD”と表示されるか、バッテリー本体の“PUSH”ボタンを 1 秒押してバッテリー本体のランプが5つ同時に点滅したら（8-11 ページ参照）、バッテリーの寿命が近づいています。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 低温環境で劣化したバッテリーを使用するとき、劣化と低温の二重の影響により放電容量が低下します。
- 常温と比較して、低温状態では放電容量がやや低下します。

JAUT4690

充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとバッテリーや充電器の故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

- 電源プラグ、充電プラグが雨や水に濡れないところ。
- 直射日光が当たらない、涼しいところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 幼児やペットなどが充電コード、充電プラグにいたずらをしないところ。
- 充電中の環境温度が0°C～45°Cの範囲内の場所。（15°C ～ 25°C を推奨）
- コードをはさんだり、踏んだり、引っ張ったりするおそれのないところ。

要 点

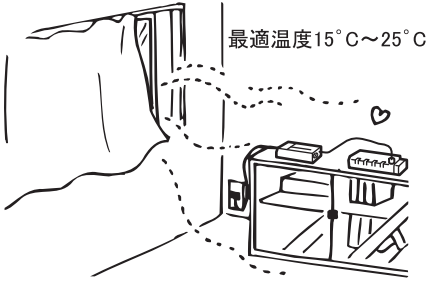
- 充電するときは、充電器の周囲に物を置かないでください。
- 充電器のファンが作動しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 充電器およびバッテリーは、必ず寝かせた状態で充電してください。立てて不安定な状態で充電すると、倒れて破損、漏電、ショートなどを引き起こすおそれがあります。

充電おすすめ場所の参考例

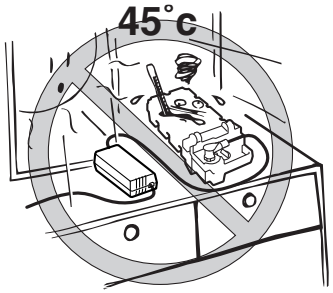
要　点

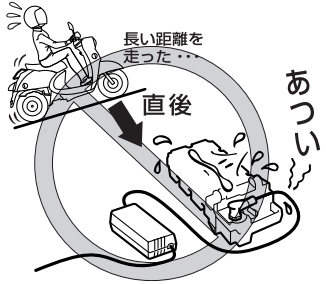
- 充電に最適な環境温度は約 15°C～25°C です。バッテリー温度が 0°C ～ 45°C の範囲なら充電可能ですが、走行直後のバッテリーは、この温度範囲外にある場合があります。このとき、バッテリーや充電器の温度が適正温度になるまで充電待ちの状態になります。
- 0°C　以下では、充電待ちの状態になります。

- 日陰で涼しく、風通しのよい場所



充電に適さない場所、充電方法





- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くでの充電
- 長い距離を走行した直後の充電

充電途中でバッテリーが規定の温度を越えたときはバッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。また、バッテリーの劣化にも影響しますので、充電はできるだけ涼しい場所で行ってください。

- 屋外、または物置などの寒い場所での充電

充電前には適正温度範囲内であっても深夜の冷え込みなどにより途中で 0°C 以下になるとバッテリー保護のために自動的に充電待ちになります。このようなときは、あたたかな場所でもう一度充電をしなおしてください。

なお、充電待ちが長時間続くと自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。

バッテリーの充電

充電のしかた

JAUT4640

JWAT1270

⚠警 告

- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器、その他の医療用電気機器を使用している方は、医師や医療用電気機器製造業者などに充電による影響の有無を確認してから充電を行ってください。充電が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。
- 屋外で充電しないでください。感電やショートにつながるおそれがあります。
- 充電前に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが充電プラグに付着していないことを確認し、付着していた場合は乾いた布でふきとってください。
- いつもと違う臭いがしたり、バッテリーや充電器から煙が出ているときは、すぐに充電を中止してください。
- 周囲が囲まれた換気の悪い場所で充電しないでください。
- 幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。
- ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。
- 充電器およびバッテリーは必ず寝かせた状態で充電してください。立てて不安定な状態で充電すると、倒れて破損、漏電、ショートなどを引き起こすおそれがあります。
- 充電器のコードや各プラグ、漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに損傷、腐食、サビなどがあるとき、または接続部にゆるみがあるときは充電を行わないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
- 感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。
  - 漏電遮断器に接続された家庭用コンセントを使用して充電してください。
  - 雨や水に濡れるところでは充電しないでください。
  - 電源プラグや充電プラグに、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着しないようにしてください。
  - 充電器のコードや各プラグに変形や傷付きがあるときは、充電をしないでください。
  - 充電器のコードや各プラグが濡れているときは、乾いた布でふきとってください。
  - 充電器のコードや各プラグを改造しないでください。
  - 濡れた手で充電プラグや電源プラグの抜き差しをしないでください。
  - 落雷のおそれがある場合は、充電をしないでください。
- 充電器のコードや各プラグを使用するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。充電器のコードや各プラグの損傷が火災、感電、ショートの原因となります。
  - 充電器のコードや各プラグの損傷を防ぐため、取扱いに気をつけてください。
  - 充電中にコードを足でひっかけないでください。
  - 充電器を車体などで踏まないでください。
  - 充電器のコードや各プラグをドアやサッシなどで、はさまないでください。
  - 充電コードを引っ張ったり、結んだり、強い力を加えたりしないでください。
  - 充電コードをねじらないでください。
  - 充電器のコードや各プラグの上に物を載せないでください。
  - 充電器のコードや各プラグは、硬いものや重いもので踏まないでください。
  - コードを束ねたり、小さく丸めたりしな

いでください。
- 充電器のコードや各プラグを傷つけたり、加工するなどしないでください。
- コードを無理に曲げないでください。
- 充電器のコードや各プラグを釘などの鋭利なもので固定しないでください。
- 充電器のコードや各プラグをストーブなどの暖房器具に近づけないでください。
- 充電器のコードや各プラグを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- 充電器のコードや各プラグが損傷（断線や芯線の露出など）している状態で使用しないでください。

JCAT1200

注 意

- 自動車の AC 電源、発電機などを充電に使用しないでください。故障の原因となります。充電するときは、必ず家庭用の漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（100V）をご使用ください。
- ご使用にならないときは、電源プラグを家庭用の漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（100V）につないだままにしないでください。ホコリや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。また、落雷などによる故障のおそれがあります。ご使用にならないときは、安全のためコンセントから電源プラグを抜いてください。

要 点

- 充電は、家庭用の漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（100V）を電源として充電器によって行います。
- EF-06 専用充電器は強制空冷方式を採用しています。充電中はファンが作動していますので、ファンモーターやファンの風切り音がします。

充電の開始

充電は、車両からバッテリーを取り外し、屋内で行ってください。

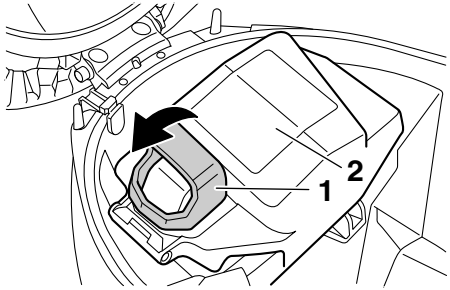
バッテリーを取り外す

1. メインスタンドを立てます。
2. メインスイッチを OFF にします。
3. シートを開けます。（シートの開閉は、4-10 ページ参照）
4. 片手でバッテリーカバーを押さえながら、反対の手でレバーを引き上げてバッテリーカバーを開けます。

JCAT1290

注 意

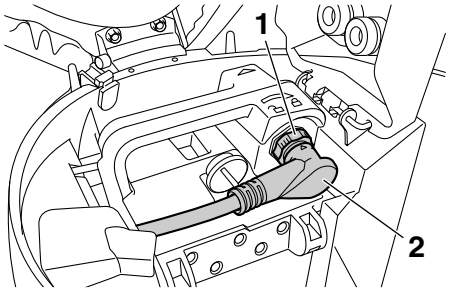
バッテリーカバーはスプリングの力で勢いよく開きます。



1. レバー
2. バッテリーカバー

5. 車体側プラグの固定リングを反時計回りに回し、固定リングが完全に緩んだ後、プラグをバッテリーから抜きます。

バッテリーの充電



1. 固定リング
2. 車体側プラグ

6. バッテリーを取り出します。

JCAT1210

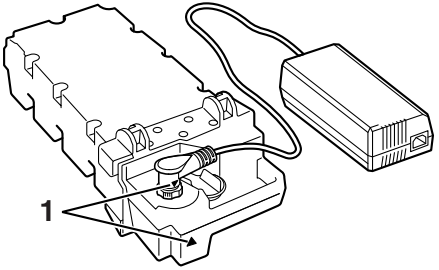
注 意

バッテリーのグリップをしっかりと握り、バッテリーを持ち上げた後、もう片方の手でバッテリー本体の底部を支えて取り出し、落下を防ぎます。

7. シートを閉めます。
8. 充電器を安定した場所に置き、充電コードの充電プラグをバッテリーコネクターへ差し込んだ後、時計回りに回してリングナットを締めます。

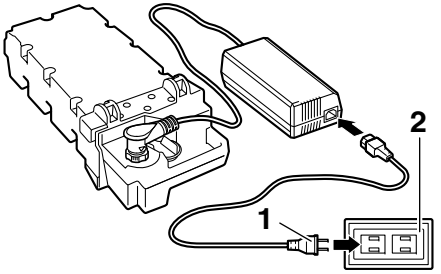
要　点

充電プラグとバッテリーの合マーク “◁” を合わせます。



1. 合マーク

9. 指定充電器専用の電源コードを充電器に差し込み、専用電源コードの電源プラグを漏電遮断器に接続された家庭用コンセント（100V）に差し込みます。充電器を接続すると、自動的に充電が始まります。



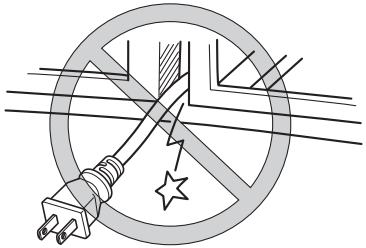
1. 電源プラグ
2. コンセント

AC 100V コンセント：
JIS C 8303 2 極接地極付コンセント
15A 125V

JCA16981

注 意

コードの取り扱いは充分注意してください。ドアやサッシで充電コードをはさみ込むと、充電コードを傷つけるおそれがあります。



JWAT1280

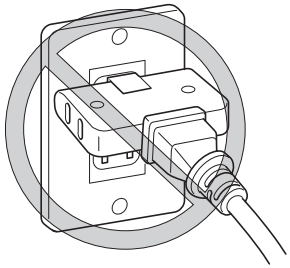
⚠警 告

- 充電するときは、充電器およびバッテリーは必ず寝かせた状態で充電してください。立てて不安定な状態で充電すると、倒れて破損、漏電、ショートなどを引き起こすおそれがあります。
- 漏電による感電や発火を防ぐため、必ず漏電遮断器に接続された家庭用コンセントを使用して充電してください。
- 各プラグの金属端子部分に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着すると火災、故障の原因となります。
- 電源プラグは、根元までしっかり差し込んでください。漏電遮断器に接続された家庭用コンセントへの接続が不充分な場合は、感電や火災の原因となります。
- 漏電遮断器に接続された家庭用コンセントを他の器具と併用して、容量以上で使用しないでください。分岐コンセント部が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 充電プラグを濡れた手で取り扱わないでください。感電するおそれがあります。

JWAT1290

⚠警 告

- 幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります。
- 以下に示したような器具などを使用して充電をしないでください。



JWAT1400

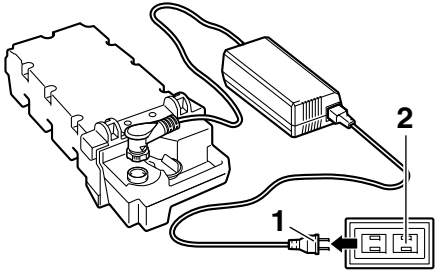
⚠警 告

- 専用電源コード以外は使用しないでください。
- 専用電源コードを、他の機器へ使用しないでください。
- コードや各プラグの改造、分解はしないでください。火災、感電、ショートの原因となります。
- 充電コードの芯線が見えるような傷があるものを使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。芯線が見えるような傷を見つけたときは、すぐに使用を中止し、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 充電コードや充電プラグに強い衝撃を与えたと思われる場合は、すぐに使用を中止し、ヤマハ販売店で点検を受けてくださ

い。
- 充電コードに強い引っ張り荷重がかかり、異常があった場合はすぐに使用を中止し、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 充電コードは過度の引っ張りで伸びることがあります。収納に支障が出るほど伸びてしまったときは断線のおそれがありますので、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 充電コードや各プラグは安全にお使いいただくために定期的に点検し、変形、傷付きなどの損傷があるときは、ヤマハ販売店に依頼して純正部品と交換してください。
- 各プラグの刃部（金属接点部）が折損したり、グラグラしているようなものを使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。プラグの刃部が折損したり、グラグラしているようなときは、すぐに使用を中止し、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- 車体が大きく破損、変形しているときは感電のおそれがあります。バッテリーや電気配線に触れないでください。

充電の終了

1. 充電が終了したら、充電プラグのリングナットを反時計回りに回し、固定リングが完全に緩んだ後、プラグをバッテリーコネクターから抜きます。
2. 充電器の電源プラグを家庭用コンセントから抜きます。



1. 電源プラグ
2. コンセント

JWAT1410

⚠ 警 告

- 各プラグを抜くときは、プラグを持って行ってください。充電コードを持って行うと、感電、ショート、発火の原因となります。
- 各プラグの金属端子部分に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着すると火災、故障の原因となります。
- 各プラグを濡れた手で取り扱わないでください。感電するおそれがあります。
- 充電が終わった後は、速やかに電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、ほこりや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。

JCA17021

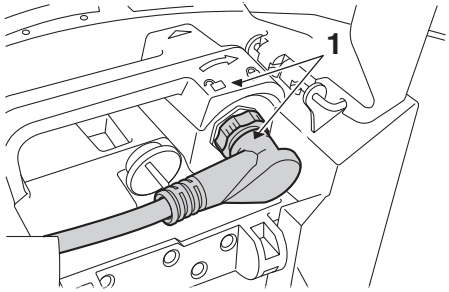
注 意

充電コードを引っ張ってプラグを抜かないでください。充電コードを傷つけるおそれがあります。

3. シートを開けます。（シートの開閉は、4-10 ページ参照）
4. バッテリーカバーを開けます。
5. バッテリーを組み付けます。
6. 車体側プラグをバッテリーコネクターに差し込み、プラグのリングナットを時計回りに回してリングナットを締めます。

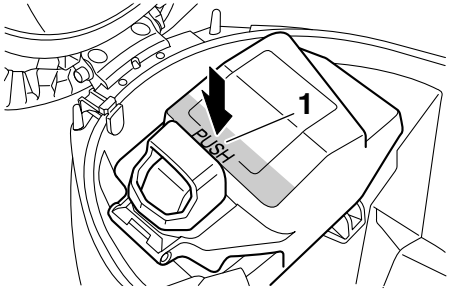
要 点

車体側プラグとバッテリーの合マーク“◁”を合わせます。



1. 合マーク

7. バッテリーカバーを閉め、バッテリーカバーの “PUSH” マークの上方をカチッと音がするまで押してロックします。



1. “PUSH” マーク

JWAT1300

⚠ 警 告

バッテリーカバーが決められた位置まで押し込まれ、ロックされているのを確認します。ロックされていない場合、乗車時にバッテリーが破損し、感電、ショートを引き起こすおそれがあります。

8. シートを閉め、シート後方を押さえてロックします。

要 点

- シートを閉める前に、シートの下に物を置き忘れていないか確認してください。
- 走行前に、必ずシートが確実にロックされているか確認してください。
- キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。注意してください。

9. キーを抜き取ります。

要 点

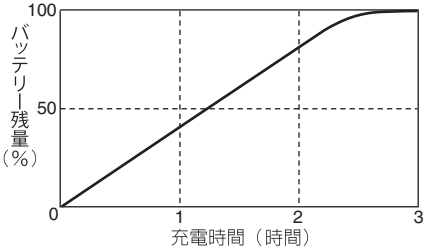
盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけてキーシャッターを閉じ、キーをお持ちください。

JAUT4570

充電時間

通常充電

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なります。
バッテリー残量0%の状態のバッテリーを充電するのにかかる時間の目安は約 3 時間です。



充電待ち

バッテリー温度が 0°C ～ 45°C の範囲にある場合は、充電待ちはありません。
バッテリー温度が 0°C 以下あるいは 45°C 以上のときは、点滅して充電待ちをします。適正な温度になると、自動的に充電を開始します。

JCAT1190

注 意

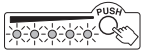
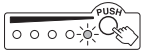
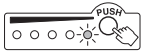
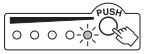
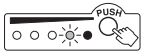
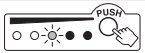
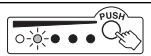
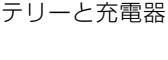
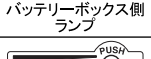
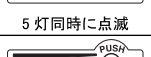
充電が完了すると、充電器の電源は自動的に

切れます。使用しないときは安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。

JAUT4580

充電の進行状態の表示

充電中は充電状態をバッテリーと充電器に表示します。

充電の進行状態	充電器の充電ランプ	バッテリーボックス側ランプ
充電待機（バッテリー温度が高すぎまたは低すぎのとき、保護機能）	緑ランプ点滅	 5 灯同時に点滅
予備充電	緑ランプ点滅	 1 灯早い点滅
充電中	緑ランプ点滅	 1 灯点滅
充電中 0–20%	● 緑ランプ点灯	 1 灯点滅
充電中 21–40%	● 緑ランプ点灯	 1 灯点灯、2 灯点滅
充電中 41–60%	● 緑ランプ点灯	 1–2 灯点灯、3 灯点滅
充電中 61–80%	● 緑ランプ点灯	 1–3 灯点灯、4 灯点滅
充電中 81–99%	● 緑ランプ点灯	 1–4 灯点灯、5 灯点滅
充電中 100%	● 緑ランプ点灯	 全灯点灯
充電完了 3 分以上経過 100%	○ 緑ランプ消灯	 全灯消灯

要　点

- 充電状態の数値は参考値です。
- 走行直後のバッテリーは、充電適正温度の範囲外にある場合があります。この場合、バッテリー内部温度が適正温度になるまで充電待ちの状態（充電器の充電ランプが緑色で点滅する状態）になります。充電進行を確認してください。
- 風通しの良い涼しい場所を選んで充電してください。

JAUT4680

バッテリーの知識
リチウムイオンバッテリーとは …

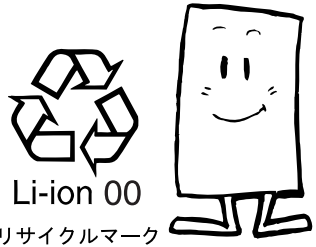
要　点

- 充電前にバッテリーを使い切る必要はありません。
- 使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。
- 外気温により性能が変化することがあります。低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。低温時は常温時に比べて放電容量が低下し、一充電あたりの走行距離が短くなりますが故障ではありません。
- 極端に高温または低温の場所でお車を保管すると放電容量が低下することがあります。
- 使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残量が減っていきます。
- 長期間保管するときは、使用の前に充電してください。
- メーターに「OLD」と表示されるか、バッテリー本体の「PUSH」ボタンを 1 秒押してバッテリー本体のランプが5つ同時に点滅したら（8-11 ページ参照）、バッテリーの寿命が終わりに近づいています。
- 低温環境で劣化したバッテリーを使用する時、劣化と低温の二重の影響により放電容量が低下しています。
- 常温と比較して、低温状態では放電容量がやや下がります。

EF-06 に使われているリチウムイオンバッテリー（Li-ion）はエネルギー密度が高く、ニカド（Ni-Cd）バッテリーやニッケル水素（Ni-MH）バッテリーの約３倍の高電圧が得られるため、小型で軽量にできます。
また、ニカドバッテリーやニッケル水素バッテリーでは、浅い放電と充電を繰り返すと放電容量が減少するというメモリー効果があるため、定期的なリフレッシュ充電が必要ですが、リチウムイオンバッテリーはリフレッシュ充電が不要で、継ぎ足し充電が可能です。

バッテリーのリサイクルにご協力ください

リチウムイオンバッテリー（Li-ion）はリサイクル可能なバッテリーです。
バッテリー交換の際は、ヤマハ販売店にご相談ください。



リサイクルマーク

JWAT1320

⚠ 警 告

- **バッテリーを分解しないでください。**
- **バッテリーを加工、改造しないでください。**
- **異なった種類のバッテリーと接続しないでください。**
- **指定以外の充電器で充電しないでください。**
- **バッテリーを他の用途に使用しないでください。**
- **周囲が囲まれた換気の悪い場所で充電しないでください。**
- **充電前に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが充電プラグに付着していないことを確認し、付着していた場合は乾いた布でふきとってください。**
- **濡れた手で触れないでください。感電する**

おそれがあります。
- バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
- いつもと違う臭いがしたり、充電器やバッテリーから煙が出ているときは、すぐに充電を中止してください。
- 充電をするときは、直射日光が当たらない、涼しい場所を選んで充電してください。
- バッテリーの残量が少ない状態で、長期間保管しないでください。
- 車体または充電器と接続する際は、プラグを奥まで確実に差し込んで、リングナットを確実に締めてください。
- 車体または充電器に接続していない時は、プラグキャップを取り付けてください。
- 故障したバッテリーは使用しないでください。その他の部品の故障の原因となります。
- バッテリーのコネクターに針金などを入れてショートさせると、感電または故障のおそれがあります。

JCAT1220

注 意

- バッテリーの残量表示が 2 灯以下の状態で、長期間保管しないでください。

バッテリーの劣化

EF-06 に使われているリチウムイオンバッテリー（Li-ion）は、性能（放電容量）が徐々に低下してゆく特性を持っています。性能低下の度合いは使用条件によって大きく異なります。

バッテリーの放電容量が低下している場合、バッテリー残量表示に2個以上の点灯が表示されていても、急に 1 個の点滅状態になることがあります。

正確なバッテリー残量を確実に表示するため、バッテリーを満充電にしてください。それでも改善しない場合は、走行後、バッテリーを 2 ～ 3 時間放置してから満充電にしてください。

要 点

- バッテリーを交換したときは、使用前に 1 回、満充電にしてください。完全に充電しないと、バッテリーの残量表示灯が正確な残量を表示できません。
- 0°C 程度の低温では、常温に比べて走行可能距離が短くなります。
- 劣化したバッテリーを低温で使用すると、劣化と低温による両方の影響を受けて放電容量が低下します。

JAUT4590

バッテリーの保管

長期間（1 か月以上）車を使用しないときは、バッテリーを取り外して保管します。バッテリーボックス側ランプが 3 ～ 4 灯の状態で、湿気のない場所に保管してください。

長期間（2 か月以上）車を使用しないときは、1か月ごとにバッテリー残量を点検してください。再使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。

JCAT1180

注 意

- 温度が15°C～25°Cの範囲にある場所に保管してください。
- バッテリーの残量表示が 2 灯以下の状態で、長期間保管しないでください。
- 周囲が囲まれた換気の悪い場所で保管しないでください。
- 幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところには保管しないでください。
- 雨や水に濡れるところには保管しないでください。
- バッテリー残量が低下しているときは、残量表示が 3 ～ 4 灯になるまで充電してください。

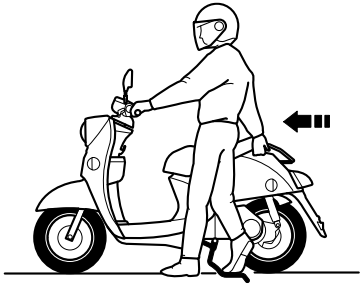
JAUT4720

発進の準備

要　点

発進の準備はスロットルグリップを閉じて行ってください。スロットルグリップを回して操作すると、エラーになることがあります。

1. 車の左側に立って左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。



2. 車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

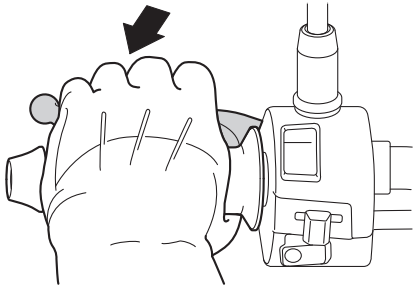
JWA15662

⚠警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

3. 右足をフットレストボードに乗せ、シートに座ります。このとき、車が倒れないように左足で支えます。

4. 車が動き出さないように、左手でリヤブレーキレバーをしっかり握ります。

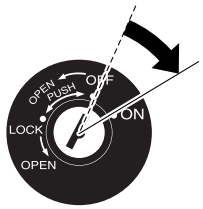


JWA15571

⚠警 告

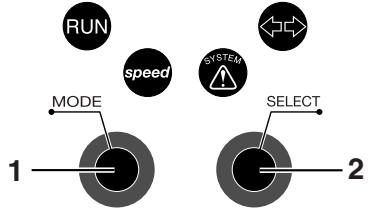
飛び出し防止のため、必ずリヤブレーキを作動させてください。

5. メインスイッチを ON にします。



全てのメーター表示が数秒間点灯した後、始動待ちモードになります。

6. “MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押して始動待ちモードを解除します。



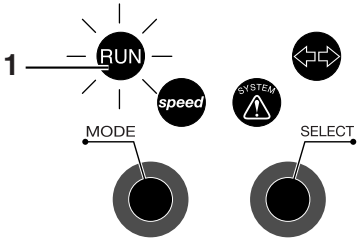
1. “MODE” ボタン
2. “SELECT” ボタン

7. バッテリー残量表示灯でバッテリー残量が充分であることを確認します。(バッテリー残量の目安は、3-3 ページ参照)

JAUT4730

発進

1. 走行可能状態表示灯 “RUN” が点灯し、走行モードになっていることを確認します。



1. 走行可能表示灯 “RUN”

要　点

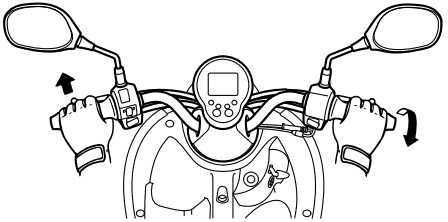
パワーモードやブーストモードに設定されていると、パワーモード表示 “ ” やブーストモード表示 “ ” が表示されます。(標準モード／パワーモード／ブーストモードの切り替えは、3-1 ページ「モードの切り替えかた」を参照)

2. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。

要　点

方向指示器を使用すると、カチカチ音が鳴ります。

3. 前後の安全を確認します。
4. リヤブレーキレバーをはなします。
5. まわりの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。



JWA12281

⚠警 告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

6. 方向指示器を消灯します。

要　点

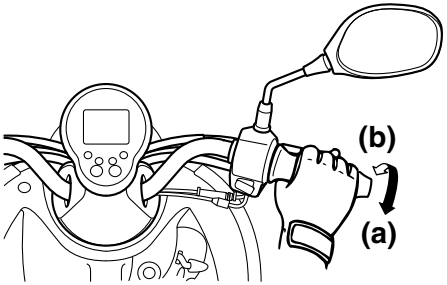
EF-06 にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま 5 分以上経過すると電源が OFF になります。5 分以上停止してから再発進する場合は、一旦メインスイッチを OFF にしてか

ら再度メインスイッチをONにして発進の準備をしてください。

JAU50112

加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉じたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JCA16850

注 意

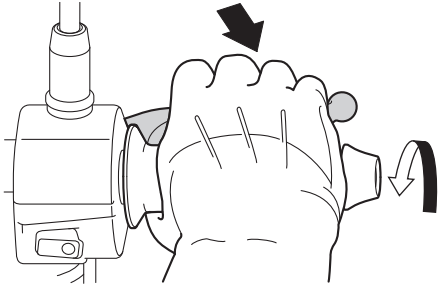
上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、モーターなどが発熱して温度保護装置が作動し、走行できなくなることがあります。

JAU16794

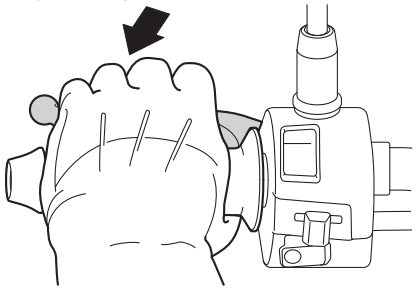
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしぼりこむように握ります。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠ 警 告

● 急なブレーキ操作は避けてください（特に

7

どちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JAUT4600

駐車

駐車をするときは、盗難予防のため必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

JWA15581

⚠警 告

- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

要　点

極端に気温の高い場所または低い場所に駐車すると、メインスイッチを ON にしたときに温度保護機能が作動する場合があります。温度保護機能が作動すると、トリップメーター／オドメーターの表示部に “HEAT” または “CooL” が点滅します。（温度保護機能は、4-6ページ「温度警告表示 “HEAT” ／ “CooL” 」を参照）

JAUT4820

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWAT1380

⚠警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。**
  - **走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
  - **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
  - **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWAT1390

⚠警 告

走行直後はブレーキ関係の部品やモーターまわりに直接触れないでください。ブレーキドラム、ライニング、モーターなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品やモーターが充分に冷えてから行ってください。

要　点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU30664

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：
1 か月点検時または 1000 km 走行時
2 回目以降：
10000 km 走行ごと
定期交換時オイル量：
0.14 L
推奨オイル：
ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

JAU50144

モーターの異音の点検

モーターまわりから異音がしないかを点検します。

要　点

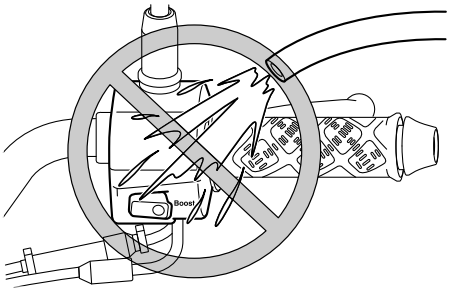
メインスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもモーターの回転数は一定以上にはなりません。

JAUT4610

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- メインスイッチを　OFF　にした状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。
- スロットルグリップまわりに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- 洗車時にはスロットルグリップまわりに直接水をかけないようにしてください。スロットルグリップまわりの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふきとってください。



JWA15673

⚠警 告

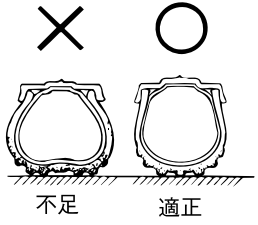
スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握ります。
2. メインスイッチを ON にします。
3. “MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押して始動待ちモードを解除します。
4. 走行可能状態表示灯 “RUN” が点灯し、走行モードになっていることを確認します。（詳しくは、7-1 ページの「発進の準備」、「発進」の方法を参照してください。）
5. ブレーキレバーをはなします。
6. スロットルグリップを徐々に回して加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき異常を感じたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU30962

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧：
1 名乗車：
前輪：
150 kPa (1.50 kgf/cm^2)
後輪
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)

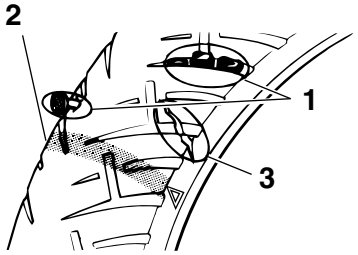
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28582

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させた

り、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28744

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが1.6mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

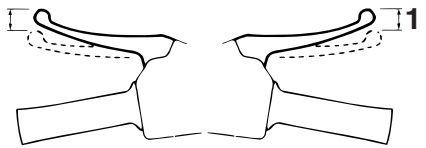
タイヤサイズ：
前輪：
90 / 90 - 10 41J
後輪：
90 / 90 - 10 41J
指定タイヤ：
前輪：
MAXXIS / C922
後輪：
MAXXIS / C922

JAU29254

ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。



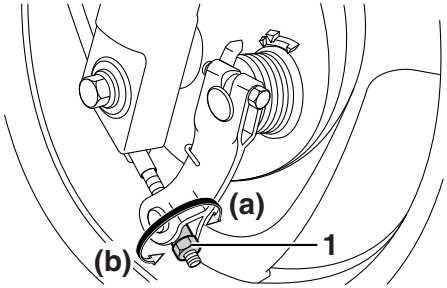
1. 遊び

ブレーキレバーの遊び
10.0–20.0 mm

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

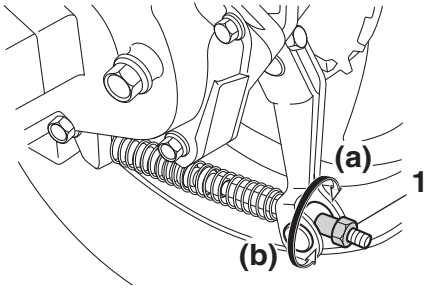
1. アジャスターを時計回り（a）に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを反時計回り（b）に回すと、遊びが多くなります。

<フロントブレーキ>



1. アジャスター

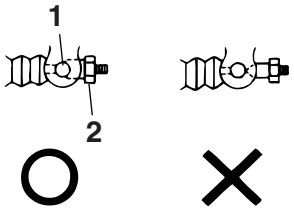
<リヤブレーキ>



1. アジャスター

要　点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。



1. ピン
2. アジャスター

JWA11851

⚠警 告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

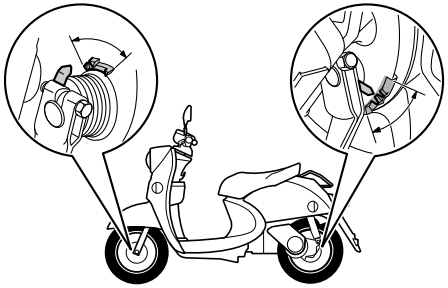
⚠警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU29801

ブレーキシューの摩耗点検

ブレーキレバーをいっぱいに握ったとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. インジケーター
2. 使用範囲

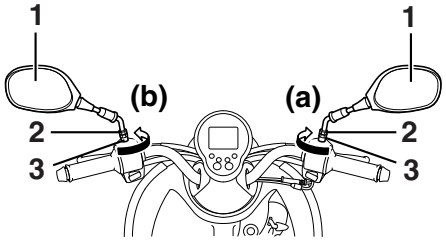
8

JAU43302

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラー取り付けアダプターのボルト部は左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けアダプターを時計回り（a）方向に回します。



1. バックミラー
2. バックミラー取り付けナット
3. バックミラー取り付けアダプター

- 左バックミラー取り付けアダプターのボルト部は右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けアダプターを反時計回り（b）方向に回します。
- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要　点

- 右バックミラー取り付けナットは、右ネジです。
- 左バックミラー取り付けナットは、左ネジです。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU50171

灯火装置および方向指示灯の点検

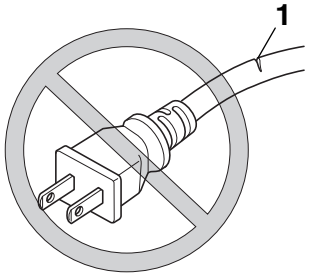
メインスイッチを ON にします。

- ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。
- フロントブレーキレバー、リヤブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- 方向指示器スイッチを操作し、左および右の方向指示灯が、前後同時におしらせ音を伴って点滅するかを点検します。
- レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

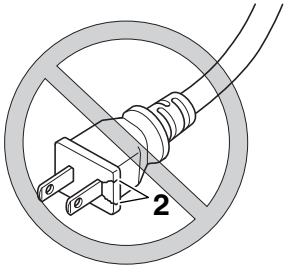
JAUT4810

充電器のコードと各プラグの点検

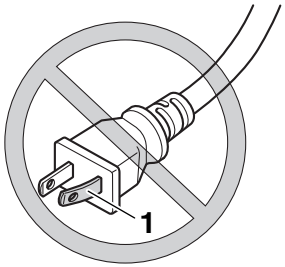
- コードおよび各プラグに亀裂や割れ、変形などの損傷がないことを点検し、異常がある場合は充電操作を絶対に行わず、ヤマハ販売店に整備を依頼してください。
- コードおよび各プラグに汚れや異物の付着がないことを点検し、付着している場合は乾いた布でふき取ってください。



1. 亀裂



1. 割れ



1. 変形

JWAT1360

⚠警 告

- **電源プラグをコンセントに差し込んだ状態で点検・整備をしないでください。感電やショートのおそれがあります。**
- **充電器のコードや各プラグが損傷、変形し**

8

ている場合は、必ず新品に交換してください。感電やショートによる火災のおそれがあります。

JCAT1270

注 意

点検時に充電器のコードや各プラグに防錆剤、有機溶剤や油脂類などが付着しないようにしてください。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAUT4620

こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

電源が入らない（メーターに何も表示されない）ときは？

1. 車体側プラグがバッテリーに正しく接続されていますか？
2. バッテリー残量はありますか？

バッテリーボックス側ランプでバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認しても電源が入らないときは・・・・

ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

メインスイッチを ON にしても始動待ちモードにならないときは？

次の項目を確認してください。

スロットルグリップを回さずにメインスイッチを ON にしましたか？

スロットルグリップを回した状態でメインスイッチを ON にすると、始動待ちモードにはなりません。スロットルグリップを閉じ、一旦メインスイッチを OFF にしてから ON にしなおしてください。

以上のことを確認しても始動待ちモードに

ならないときは・・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

発進できないときは？

走行モードになっていますか？（走行可能表示灯 “RUN” が点灯していますか？）
走行モードにならないと、発進できません。
上記のことを確認してから、7-1 ページの「発進の準備」、「発進」の方法で再度発進してください。
以上のことを確認しても、発進できないときは・・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

システム警告灯 “⚠” が点灯したときは？

メインスイッチを一旦 OFF にしてから ON にしなおしてもシステム警告灯 “⚠” が点灯しているときは・・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要　点

システム警告灯 “⚠” が点灯していても、走行可能表示灯 “RUN” が点灯し走行モードになっていれば走行できます。

ランプ類が点灯しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？
   メーターが表示していないときは、オートパワーオフが作動している場合がありますので、一旦メインスイッチを OFF にしてから ON にしなおしてください。
2. 各スイッチを作動させていますか？

以上のことを確認しても、ランプ類が点灯しないときは・・・・
ランプの球切れが考えられます。10-1 ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

JCA11983

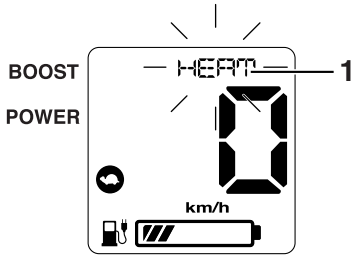
注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

走行中にモーターが止まったときは？

次の項目を確認してください。

1. 車体側プラグがバッテリーに正しく接続されていますか？
2. バッテリー残量はありますか？
   バッテリー残量表示灯でバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。
3. メーターの表示は “HEAT” が点滅していて “RUN” が消灯していませんか？



1. “HEAT” 表示

   温度保護機能が作動しています。メインスイッチを OFF にして、しばらく待ってから使用してください。

以上のことを確認しても、モーターが回らないときは・・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWAT1260

⚠ 警 告

- **EF-06 を押して移動する場合は、メインスイッチを OFF にしてください。**
- **押して移動するとき、歩道のある場所では**

8

歩道を通行してください。

メインスイッチが ON のときにメーターやヘッドライトが消灯したときは？

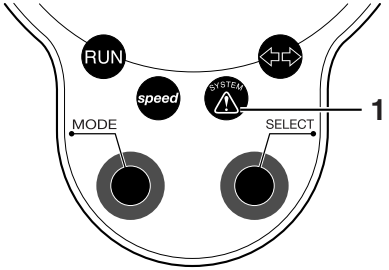
次の項目を点検してください。

1. 5 分以上、停車していませんか？
   この車両にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま 5 分以上経過すると電源が OFF になり、メーターやヘッドライトが消灯します。
2. バッテリー残量はありますか？
   バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

以上のことを確認してから再度メインスイッチを ON にしてください。

再度メインスイッチをONにしてもメーターやヘッドライトが点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

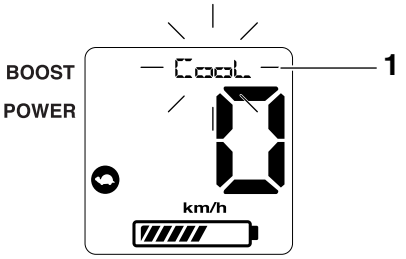
メインスイッチを ON にしたとき、システム警告灯が点灯したときは？



1. システム警告灯 “⚠”

メインスイッチをOFFからONにするリセット操作をし、再び上記の表示となったときは、機器の故障が考えられます。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

メーターに “CooL” が点滅したときは？



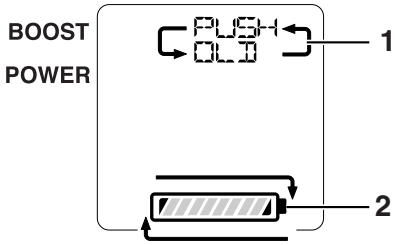
1. “CooL” 表示

故障ではありません。

バッテリーの温度が 0°C 以下のため、放電電流を制限している状態です。走行スピードが遅くなることがあります。適切な温度になれば "CooL" が自動的に消灯します。

メインスイッチを ON にしたとき、以下のバッテリー劣化画面を表示したときは？

- バッテリー残量表示灯のセグメントが左右に移動しているように点灯
- “PUSH” 表示と “OLD” 表示が交互に点灯



1. “PUSH” ／ “OLD” 表示
2. バッテリー残量表示灯

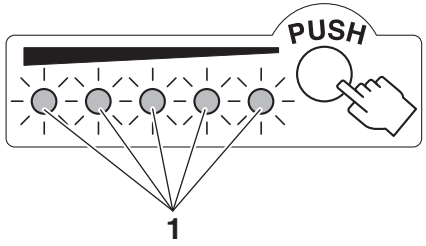
バッテリーが劣化しています。
“MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押します。
この操作でメーターは、バッテリー劣化画面から始動待ちモードの画面に切り替わります。
“MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押して始動待ちモードを解除します。
走行可能表示灯 “RUN” が点灯し、走行モードになっていれば走行できますが、バッテリーの寿命が近づいています。バッテリーの充電ができなくなる前に、バッテリーを交換してください。

要　点

“MODE” ボタン、“SELECT” ボタンのいずれかを押すまでメーターはバッテリー劣化画面を表示し続けます。

バッテリーボックス側の残量表示灯が 5 灯同時に点滅したときは？

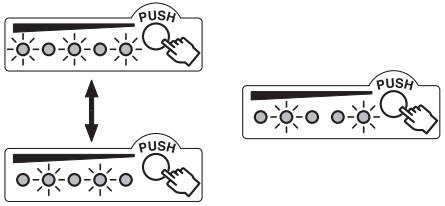
バッテリーボックス側 “PUSH” ボタンを 1 秒間押すと、残量表示灯が 5 灯同時に点滅します。バッテリーを交換してください。



1. 点滅

バッテリーボックス側の残量表示灯に異常画面が表示したときは？

バッテリーボックス側の “PUSH” ボタンを 1 秒間押すと、残量表示灯の 1,3,5 と 2,4 が交互に点滅するか、または 1,4 だけが同時に点滅します。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



充電できない（充電してもバッテリー残量が増えない）ときは？

次の項目を確認してください。

1. 充電器の充電プラグは、バッテリーコネクターに差し込まれていますか？
2. 電源プラグは、漏電遮断器に接続された家庭用コンセントにしっかり差し込まれていますか？
3. 漏電遮断器に接続された家庭用コンセントに電源がきていますか？

上記のことを確認してから、6-3 ページの「充電のしかた」を参照し、もう一度充電してください。
以上のことを確認しても、充電できないときは・・・・
充電器またはバッテリーの故障が考えられます。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

充電器から異臭、煙がでるときは？
コンセントから電源プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1 回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？
バッテリーの寿命です。
ヤマハ販売店でバッテリーを交換してください。バッテリー交換は有料です。

漏電遮断器が作動して充電ができないときは？
充電操作を止めて、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

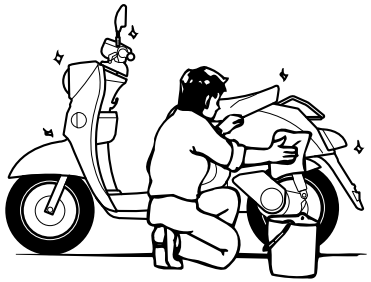
JAUT4800

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JWAT1370

⚠警 告

- **洗車をする前に、必ずシートが閉まっているか確認してください。シートが開いていると、バッテリーに水がかかり、感電やショートの原因となります。**
- **洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキが効かなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。**
- **洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。**
- **コードやプラグは水で洗わないでください。汚れたときは、乾いた布でふき取ってください。**

JCA16861

注 意

- **スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。**
- **ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、**

9

ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- **ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。**
- **高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。**

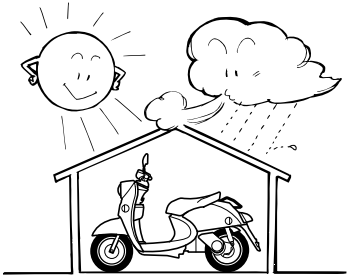
要　点

洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAUT4790

保管のしかた

保管場所

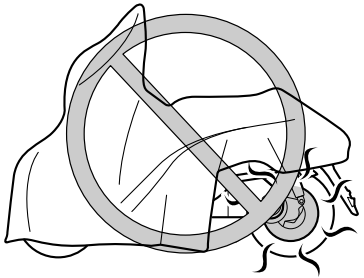


保管場所は慎重に選びましょう。

- 平坦で安定のよいところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ。
- 車はできるだけ敷地内に保管してください。

保管方法

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。



長期保管するときは

- バッテリー残量が少ない場合は充電してください。バッテリーを長持ちさせるために、バッテリーの残量表示が 3 ～ 4 灯の状態での保管をおすすめします。
- バッテリーの残量が 1 灯以下（バッテリーの残量表示が 20%以下）の状態にならないようにしてください。この状態で長期保管するとバッテリーがダメージを受け、容量低下の状態によってはバッテリーの交

換となる場合があります。

JCAT1280

注 意

取扱説明書の指示に従って、バッテリーを充電してください。バッテリーは、完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなることがあります。

- 保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。

長期間保管して再使用するときは

- 長期間（1 か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
- 走行前に、各部の点検をしてください。
- 充電する前に、バッテリーと充電器の点検をしてください。

JAUT4760

アフターケア用品について

ヤマハ車のお手入れには、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。
ヤマハ純正用品に関しては、下の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

http://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

製品仕様

寸法 :
全長 :
1675 mm
全幅 :
660 mm
全高 :
1005 mm
シート高 :
715 mm
軸間距離 :
1160 mm

重量 :
車両重量 :
68 kg
車両総重量 :
123 kg
乗車定員 :
1 名

性能 :
一充電走行距離（定地）:
29.0 km (30km/h)
最小回転半径 :
1.8 m
最高出力 :
1.2 kW / 3760 r/min (1.6 PS / 3760 r/min)
最大トルク :
7.8 Nm / 330 r/min (0.80 kgf-m / 330 r/min)

車体 :
フレーム形式 :
バックボーン
キャスター :
24.08 度

ステアリングシステム :
ハンドル切れ角（左）:
45.0 度
ハンドル切れ角（右）:
45.0 度

フロントブレーキ :
ブレーキ形式 :
機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ :
ブレーキ形式 :
機械式ドラムブレーキ

懸架方式 :
種類（前）:
テレスコピック
種類（後）:
ユニットスイング

緩衝方式 :
ショックアブソーバータイプ（前）:
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ（後）:
コイルスプリング / オイルダンパー

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
90 / 90 - 10 41J
メーカー / 銘柄 :
MAXXIS / C922

リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
90 / 90 - 10 41J
メーカー / 銘柄 :
MAXXIS / C922

トランスミッション :
1 次減速比 :
9.400(47/15) × (39/13)

ヘッドライト :
ヘッドライト球 :
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数 :
ヘッドライト :
12 V, 35.0 W/35.0 W × 1
テール / ブレーキランプ :
12 V, 5.0 W/18.0 W × 1

方向指示灯（前）:
12 V, 10.0 W × 2
方向指示灯（後）:
12 V, 10.0 W × 2
メーター灯 :
LED

パイロットランプワット数 x 個数 :

方向指示器表示灯 :
LED
速度警告灯 :
LED
走行可能表示灯 :
LED
システム警告灯 :
LED

ファイナルギヤオイル :

指定オイル :
ヤマルーブ ギヤオイル
オイル量 :
0.14 L

ケーブルとレバーの遊び :

フロントブレーキレバー遊び :
10.0–20.0 mm
リヤブレーキレバー遊び :
10.0–20.0 mm
スロットルグリップ遊び :
3.0–5.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）:

前輪（1 名乗車）:
150 kPa (1.50 kgf/cm^2)
後輪（1 名乗車）:
175 kPa (1.75 kgf/cm^2)

バッテリー :

バッテリー型式 :
リチウムイオンバッテリー /
ESB4-0
バッテリー容量 :
50 V, 10.0 Ah

ヒューズ容量 :

メイン :
7.5 A
DC-DC コンバーター :
10.0 A

JAU36642

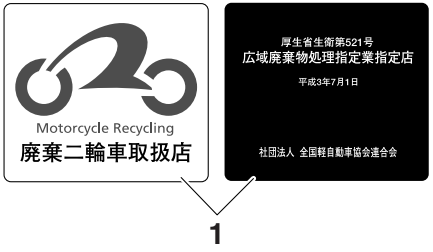
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

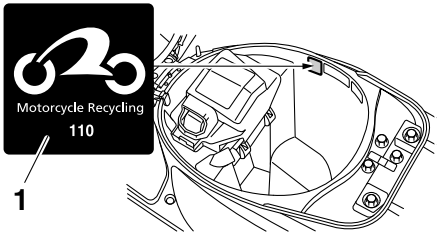
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。

ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム
http://www.Yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
http://www.jarc.or.jp/ motorcycle/

JAU28392

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

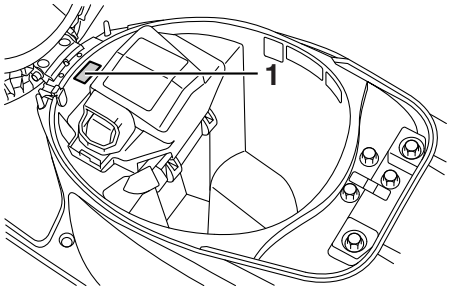
EF-06　サービスマニュアル　部品番号：
QQS-CLT-000-B86

JAU50492

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。
モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。

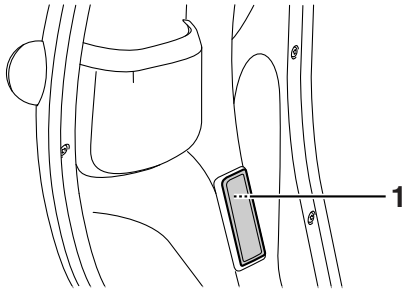


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
E ビーノ
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

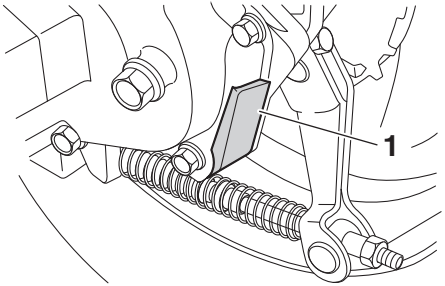


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

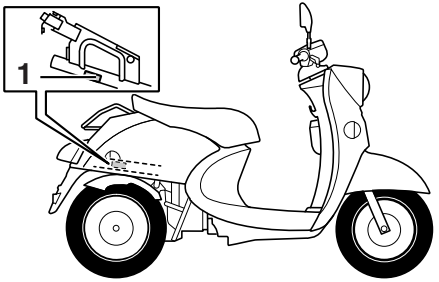


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50521

型式認定番号



1. 型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

あ
あなた自身のために……1-1
アフターケア用品について……9-3
安全な充電とバッテリー取り扱いの注意……1-6
う
運行において異常が認められた箇所の点検……8-8
お
主な特徴について……3-1
か
加速と減速……7-3
型式認定番号……11-3
環境との調和のために……1-5
き
キーシャッター……4-3
キーの取り扱い……4-1
け
警告灯と表示灯……4-3
原動機番号……11-3
こ
交換部品と運搬……1-5
こんなときは……8-8
コンビニフック……4-12
さ
サービスマニュアル（別売）の紹介……11-2
し
シートの開閉（シートロックオープナーの使いかた）……4-10
車体各部の給油脂状態の点検……8-6
車台番号……11-2
車両情報……11-2
充電器のコードと各プラグの点検……8-7
充電時間……6-8
充電する場所……6-1
充電のしかた……6-3
充電の進行状態の表示……6-9
書類入れ……4-11
す
スタンディングハンドル……4-13
せ
洗車……9-1
そ
走行距離の目安……3-2
た
タイヤ……8-3
ち
駐車……7-4
て
低速、加速の状態の点検……8-2
点検整備の実施……8-1
と
灯火装置および方向指示灯の点検……8-7
トランク……4-12
に
日常点検箇所／点検内容……5-1
日常点検の実施……5-1
二輪車を廃棄する場合は？……11-1
は
バックミラー……8-6
発進……7-2
発進の準備……7-1
バッテリー残量の目安……3-3
バッテリーの上手な使いかた……3-2
バッテリーの知識……6-10
バッテリーの保管……6-11
ハンドルスイッチ……4-8
ひ
標準モード／パワーモード／ブーストモード……3-1
ふ
ブーストスイッチ……4-9
ファイナルギヤオイルの交換時期……8-2
ブレーキ……7-3
ブレーキシューの摩耗点検……8-5
ブレーキレバーの遊び、きき具合の点検……8-4
フロントブレーキレバー……4-9
フロントポケット……4-11
へ
ヘッドライト上下切り替えスイッチ……4-9
ヘルメットホルダー……4-11
ほ
ホーンスイッチ……4-9
方向指示器スイッチ……4-9
保管のしかた……9-2
歩行者と他の車のために……1-4
ま
マルチファンクションメーター……4-4
め
メインスイッチ……4-1
も
モーターの異音の点検……8-2
モデルラベル……11-2

索引

り
リヤブレーキレバー.....4-10

あなたの街のあなたのお店

最寄のお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-B86

PRINTED IN TAIWAN
2015.09-0.7 × 1 NKT
(J)